



半田市報

栄える市勢
支える市税

待望の新市庁舎できる

16日よりこびの完工式

終わり、祝酒をくみかわして、新庁舎の完成と市の前途を祝福しました。17日から二日間市民のご参観に供しました。写真はその完工式

躍進半田市のシンボルトして市民待望の新市庁舎は、昨年6月15日着工以来伊勢湾台風による中絶もありましたが、去る7月31日できあがりしましたので、8月16日午前10時半から新庁舎南館で喜びの完工式をあげました。各界から約六百名のご臨席をいいただき、開式の辞にはじまり、国歌斉唱、市長挨拶、工事経過報告、感謝状贈呈、来賓祝辞、万才三唱、閉式の辞の順序でとおこりなく

深津市長の式辞

残暑なおきびしきおりから、各界多数のご臨席をえまして、かくも盛大に新市庁舎の竣功式を挙行することができましたのは、私のもっとも喜びとするところであります。

かえりみますれば、二十有余年前本市が市制を施行いたしました当時から、すでに各方面で新庁舎建設の必要性が論議され、従って私どもはこれが実現の日をつねに「まぶた」にえがいて今日に至ったのであります。しかるにその間、太平

旧市庁舎は昭和12年市制施行の時に旧半田町役場をそのまま利用したもので、明治13年に半田村立小学校舎として建てられたのであるから、今日までに八十年を経過した古い建物であります。市制施行後新築の計画がありました。日華事変・太平洋戦争となつて実現することができず、昭和25年に再びこの問題がとりあげられ、市議会内に市庁舎建設特別委員会が設けられたが、市財政の關係上行き悩むとなりまして、昭和31年度に財政建てなおしのため地方財政再建特別措置法の適用を受けたが、庁舎が旧式でせまいため市政の

洋戦争による戦争目的遂行のための犠牲や、物資の不足と地方財政の極端な貧困の時代にあり、私ども七万市民の希望はいつまでもはかなく消え去るのみでありました。

こうした経過の中にも、関係者の根強い推進力と各方面の強力なご援助によつて、一步一步と具体化へのあゆみをつづけ、苦しい赤字財政の中から建設資金の積立てや、困難な起債の確保など、大ぜいの人たちのつきないご努力によりまして、ついに今日のこの輝かしい日を迎えることができたのであります。

運営に多くの障害と不便を感じたので、三たび建築設計を立て、32年度に再び特別委員会を設けて調査研究にはいったのであります。

総工費実に一億六千五百余万円、のべ一千六百余坪の地上を庄する鉄筋三階建てのこの建物は、二十余年来の夢がついに実現したのであります。卒直に申せば、私はこの建物をなん度見ても、見あきることがありません。そして、なぜかみように涙のにじむような思いが浮んでくるのを、禁ずることができないのであります。それほどに、この新庁舎には言葉にのべがたい強い感慨と愛着がこもっているものであります。

先づ建設の位置が検討され、33年8月学識経験者の意見をもとにして現位置（東洋町二の一）に決定。翌34年2月建築設計を日建設計工務株式会社に依頼しました。設計概要は敷地六二一五平方メートル、建築面積二七四五平方メートル、総床面積五五二六平方メートルで、管理部門を三階建、事務部門を二階建とし、同年6月設計が完了しました。

市役所の電話

半田市役所の電話番号は、一六〇〇番（代表）ですが、夜間と休日は二三六〇番（代表）になりますから、ご承知ください。

れることができませぬ。市民各位の温かいご支援はいうにおよばず、計画の当初から懇切なご指導を賜った関係官署の皆様がた、また、着工以来始終善意と誠実をかたむけて犠牲的努力をはらわれた工事関係者等に対しましては、この機会に深く感謝申しあげられるものであります。とくに、工事完成の間ぎわに至つて、新庁舎に必要とする各種調度品類の調達にあたり、一千百余万元の特別寄付を賜りました方々に対しましては、この際あらためて深甚の敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、この無上の喜びにひたる日を機に、私は一つのお誓いを申しあげたいと思います。すなわち、今日のこの新たな感激を胸一ぱいにこめて、これからの市政に、なお一層の精進をつくしたいと存するのであります。半田市民七万人のサピセンタールとして万全を期し、本市の発展と向上が一だんの速やかなテンポでおし進められるように、市職員の先頭に立つて勇敢